アジア・アフリカ地域研究 第17-2号　2018年3月
Asian and African Area Studies, 17 (2): 258-286, 2018

特集・ベトナムのガイ人―客家系マイノリティの歴史・宗教・エスニシティ―

ベトナムの「華人」政策と北部農村に住むガイの現代史

伊　藤　正　子*

"We Are Not the Hoa": Vietnamese State Policies towards the 'Chinese' in Vietnam and the Modern History of the Ngai Living in Northern Rural Areas

ITO Masako*

In Vietnam, people must belong to one of the 54 ethnic groups recognized by the state. In the agricultural hilly area in the north, nearly 100,000 people are self-proclaimed Ngai, who speak a kind of Hakka language. Though the state accommodated the new category 'Ngai' to pull them apart from China during the Chinese-Vietnamese War in 1979, the cadres in the rural area compelled the Ngai people to register themselves as Hoa, as they regard the people with Chinese-origin as Hoa. According to the Statistics Bureau of Vietnam, only around 1,000 people are recognized as Ngai. In this study, I consider the difficulty faced by one ethnic group to live in country A, which conflicts with country B, to which they originally belong. To this end, I clarify the life histories of the self-proclaiming Ngai. They are publicly regarded as reactionary in nature, but many Ngai cooperated with the Viet Minh and did not leave Vietnam even in 1978-79. As discriminatory policies were implemented without public knowledge, the Ngai faced severe hardships in the 20th century. Recently, however, the young Ngai are pioneering their way to a better life by going to work in China, using the new network that was established during the war.

1. は　じ　め　に

本稿では，ベトナム北部の丘陵・山間部地域の農村に広く分散して居住し，ガイ（Ngái）であると自称している人々がどのような歴史や特徴をもつ人々なのかを明らかにするとともに，ガイのライフヒストリーを通じて，ベトナムの華人政策が当該住民に与えた影響を検討する．

ベトナムの民族政策の特徴のひとつは，国家が国定民族を決定し，その分類枠組みに沿って政策を実施することである．[1] つまりベトナムは，国民を明確に民族ごとに分類してふさわ

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科，Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University
2017年8月3日受付，2017年10月13日受理

しい名称を決定し，それぞれに適切な政策を施すことで，諸民族の平等が達成でき国民統合につながると考えている．そのためベトナムでは，1979 年に，国家[2] が民族の分類作業を終え，国内に 54 の民族が居住すると発表した．（本稿ではこれを国定民族と呼ぶ．）多数派を占める「キン（Kinh・京）」と 53 の少数民族から成り，特に少数民族は，その文化や暮らしが博物館やテレビ番組で展示・紹介されたり，かれらが集う定期市や住居が国内外からの観光客の集まる目玉スポットになったりしている．しかし，そのような国定少数民族のなかで，ベトナム人研究者によってそれほど研究されていないのが，「ホア（Hoa・華）」であり，さらにほとんど研究されたことがないのが，同じ漢語系の言語を話すとされる「ガイ」である．北部では，タイグエン（Thái Nguyên），バクザン（Bắc Giang），カオバン（Cao Bằng）などの各省に広がって分布しており，多くは農村で農業に従事している．

「ガイ」とは，この 1979 年の国定民族確定の際に，新たに設定された民族名である．ガイとは客家語の「私」の意味で，ベトナムの「ガイ」も客家系の集団と推測される．Ngái には「艾」の字があてられることが多い．しかし言語は方言差程度の違いであるにもかかわらず，ホーチミン（Hồ Chí Minh）市など都市に多くいる客家と同じとみなして「ホア」に含めることなく，「ホア」とは別の民族とされた．2009 年の人口と住宅総調査[3] では 1,035 人とされている．しかしながら実際には，ベトナムの北部の丘陵・山間部地域の農村には，ガイと自称しているが，「ホア」と登録されている人々が多数存在する．その数は，人口統計によれば数万人にものぼるとみられる．[4] ベトナムの学界で，「ガイ」が「ホア」とは違う一民族として認められていることは，さまざまな文献で繰り返し言及されている．しかしガイと主張しているにもかかわらず，「ホア」に分類されている人々が多数いることについての指摘はない．この背景も考えてみたい．

1）ベトナムの民族分類政策については，［伊藤 2008］を参照のこと．

2）ベトナムでは，日本と同様の行政機構に並列して，ベトナム共産党の統治機構が中央から末端の村まで設置されている．さまざまな政策を実際に遂行するのは，基本的には行政であるが，共産党が指導している場合もあり，両者は判別がつけにくい．そのため，行政なのか党なのか実施主体を明示しにくい場合は，国家の語を用いる．

3）Tổng cục thống kê, kho dữ liệu, tổng điều tra dân số và nhà ở 2009（2009 年人口と住宅総調査，統計総局）による．〈http://portal.thongke.gov.vn/khodulieudanso2009/Tailieu/AnPham/KetquaToanbo/Bieu5.pdf〉（2017 年 9 月 25 日閲覧）

4）たとえばバクザン省では，総人口 160 万人中，19,179 人のホアがおり，タイグエン省では，総人口 113 万人中，2,064 人のホアがいるが，その多くは農村で農業に従事しているガイとみられる〈http://www.bacgiang.gov.vn/tong-quan-bac-giang/16922/Dan-toc.html〉，〈http://bandantoc.thainguyen.gov.vn/-/thanh-phan-dan-toc-tren-ia-ban-tinh-thai-nguyen〉（2017 年 9 月 25 日閲覧）．以下のバクザン省の HP では，ホア独特の料理として最初に「扣肉」が挙げられているが，これは客家系の人々に特徴的な料理であり，このことからもバクザン省のホアの多くが，実は客家系のガイであることが推測される．〈http://www.bacgiang.gov.vn/tong-quan-bac-giang/16964/Dan-toc-Hoa.html〉（2017 年 9 月 26 日閲覧）．バクザン省でグエン・ヴァン・チン教授とともに調査を行なった客家語研究者の徐富美（Hsu Fu-mei）（元智大学）は，彼女自身が台湾在住客家であるが，幾つかの語彙の発音の仕方が異なるだけで，客家語とガイ語は同じ言語であると断定した［Nguyễn Văn Chính 2016: 4］．

筆者は 2003 年に当時のベトナムの民族学研究所所長だったコーン・ジエン（Khổng Diễn）氏に「『ガイ』は今何人くらいどこにいるのか」と尋ねたことがあったが，「かれらは中国へ行ってもういない」とつれない返事をされ，それ以上取りあってもらえなかったことがあった．またその 3 年後，北部のタイグエン省にあるベトナム民族文化博物館を訪問し，博物館スタッフで民族学者のジエップ・チュン・ビン（Diệp Trung Bình）氏と懇談した．1979 年の 54 の国定民族決定時にハノイの民族学研究所の研究員であったビン氏は「自分こそが『ガイ』を一民族として分類したのだ」と発言し，翌日タイグエン省内のガイの居住地に連れて行ってくれる約束をしてくれたが，翌日午前中ずっと携帯電話の電源を切って連絡を断った．これらの事実から，筆者は，ガイという人々がベトナム人研究者にとってタブーになっていることを感じ取った．

2015 年になり，ドイモイ後ベトナム人の人類学者のなかで最初に西側（オランダ）で博士号を取得したハノイ国家大学人文社会科学大学のグエン・ヴァン・チン（Nguyễn Văn Chính）教授の理解と協力を得て，ガイの居住地であるタイグエン省とバクザン省で現地調査をすることが可能となった．本稿は，この調査をもとに，ガイとはどういう人たちなのか，なぜほとんど研究されてこなかったのか，かれらはどのような歴史をたどってきたのかを明らかにすることを目的とする．

これまでの文化人類学的研究は，かれら個々人がどのような歴史を生きてきたかについては具体的にふれていない．また後に引用する古田の著作［古田 1991］は，歴史研究であるが，時代の制約もあり，ガイの人たちの生の声を聞き取っていない．したがって筆者は，オーラルヒストリーを手法として，かれらの具体的な経験を描き，北部ガイの苦労の多かった歴史を 20 世紀から現在に至るスパンで明らかにしたい．それを通じて，ベトナムの華人に対する少数民族政策と，中国という対立する国家にルーツをもつ人々が，生きる生きづらさについても，検討する．

この問題は，現代日本にとって，無関係ではありえない．日本では，韓国や北朝鮮との国家関係が，色々な問題によって極度に悪化している現在，それらの国にルーツをもつ在日コリアンを，対立する国家と同一視して，嫌悪・排除の対象にしようとするヘイトスピーチなどの行為が，大きな差別問題，人権侵害問題として浮上しているからである．

本稿はまず 2 で，数少ない先行研究の紹介を通じて，ガイのエスニシティについてまとめ，3 では，古田の著作に基づき，ベトナムの「華人」政策を概観する．そして 4 でガイのライフヒストリーをもとに，20 世紀半ばから後半にかけて，常に中国との関係に左右されながら展開されたベトナムの「華人」政策が，ガイにどのような影響を与えてきたかを明らかにする．また 5 では，21 世紀に入り，1970 年代末に起きたガイの中国への大量出国により形成された中国側親族とのネットワークをもとに，ガイが違法出国による出稼ぎルートを開拓し，ベトナ

ム国家の権力が及ばないところで新たに生きる道を切り開いている状況にふれたい．最後のまとめでは，ガイの事例を通じて，日本に住む私たち自身の抱える問題を省みたい．

ここで用語について述べておくと，権力側から決定された国定民族を意味する場合は「　」付きで，権力側の名づけとは関係なく，少数民族側が自称として述べたり，一般の人々の間で自他を区別するための呼称として使用している場合は，「　」無しでそのまま，ガイ，ホアなどと記す．また，ホア，ガイ，漢，客家などの用語については後述する．また国籍の有無について区別する必要がある場合は，中国の国籍を維持している者を「華僑」，ベトナム国籍を取得している者を「華人」とする．（エスニックグループとしての華人を表す場合は，ホアとする．）

2．ガイとは誰か―先行研究を中心に

ガイは，1979 年以前はホアに含まれると考えられていたにもかかわらず，中越関係が悪化した 1979 年に決定された国定民族分類では，突如ひとつの別の民族として分けられた．ここではまず，ホア（華）とハン（漢），客家とガイとの関係についてまとめて，ひとつの別の民族とされた背景をさぐり，さらに久方ぶりに出されたガイについての最新の研究により，ガイの起源やエスニシティについての議論を紹介する．

ベトナム民主共和国が北半分の統治を国際的にも認められた 1950 年代半ば以降，ベトナム国家は，「ホア」の大きなくくりの下に，サブグループとしてハン，カイック，ガイなどを並べて位置づけていた［*Các dân tộc thiểu số ở Việt Nam* 1959: 241-248］．ここでのハンは広東人，福建人，潮州人，海南人などを意味している．客家語は，広東語，福建語，潮州語などと比べると，隔たりが大きいとされ，そのため，同じ中国系住民でも，客家をハンに含めず，「ホア」のサブグループとして，ハンと並べて捉える考え方がある．そのため，ハンといった場合に，筆者によって，そこに客家を含めて考えている場合と，客家を別の枠組みとして捉えている場合がある．

瀬川昌久は，客家の自己意識の強さを生んだ背景として，以下のように述べている．「彼らが中国南部においては『後来者』であり，先住の他の漢族グループから外来の少数派として差別されることが多かったことがしばしば挙げられる．すなわち，彼らは広東人，福建人などの先住の漢族が中国南部の主要な平地を開拓した後に，その間隙をぬうように南下して，山がちな地域に住み着いていったとされる．したがって，平地の先住の漢族からは，畲族，瑶族などの山地民の末裔だとか，山地民と漢族との雑種であるとかいう見方でもって見られたり，あるいは本籍をもたない流浪の民であるとして，差別されてきた．こうした他の漢族グループからの差別や偏見に対して，客家はそれを逆手にとって，自分たちこそ正統な漢族の末裔である，との自己意識を確立してきたのである」［瀬川 1993: 23］．これから，客家の自己意識の強さ

と同時に，他の漢族と区別して，少数民族に近い人々とみなす見方があることがわかる．同様に，ベトナムでもハンに客家を含めずに捉える見方がかつてあったと推測される．

1968-73 年にかけては少数民族を分類するための調査が続けられ，南北統一前の 1973 年の 6 月と 11 月に，ベトナム社会科学委員会（現ベトナム社会科学翰林院），直接的には同委員会付属の民族研究所が開催した会議の結果，北部だけに対象を限った少数民族一覧表が発表された．このなかでは，「ガイ」は「ホア」のサブグループとして明記されていた［Viện Dân tộc học 1975: 7-19］．この一覧表が掲載された書籍の出版は，会議から 2 年たった 1975 年 12 月であるが，その時点でもまだ，「ガイ」は「ホア」のサブグループの位置づけである．

しかし，1979 年に国家が決定した「民族成分一覧」の表では，「ガイ」が「ホア」から独立して，突如ひとつの国定民族として登場している．ベトナムの民族学者たちは，言語や風俗習慣，移住地域や時期などが異なることを根拠に，「ホア」と「ガイ」を別の民族であるとした［Việt Bảng *et al.* 1979: 6］．この 1975 年から 1979 年の民族成分の表の発表までの 3 年強の間に起こったのが，中越関係の急速な悪化であった．「ガイ」が突然「ホア」から切り離された背景には，間違いなくこの中越関係の悪化がある．東北山間部に数万人もガイと自称する人々が居住していることから，中越戦争直後の民族確定作業においては，とにかく中国の脅威を軽減するために，ハノイやハイフォンなどの都市に多く居住し中国との関係が密接な「ホア」と，より古い時代に移住してきて東北山間部の農村地帯に住む「ガイ」は関係がないということを形のうえで明示する必要があったのが，「ガイ」が「ホア」から分離された最大の理由だろう．つまり，統治側のベトナム共産党にとって，「ガイ」はベトナムの一少数民族であって中国とは関係ない，という体裁を取る必要があった．[5)]

この一覧表には，それぞれの国定民族が主としてどこに居住しているかも記されている．それによると，「ホア」は，ホーチミン（Hồ Chí Minh）市とハノイ（Hà Nội）市，ハイフォン（Hải Phòng）市以外は，ハウザン省，ドンナイ（Đồng Nai）省，ミンハイ省（現在のバクリウ（Bạc Liêu）省，カマウ（Cà Mau）省にあたる），キエンザン（Kiên Giang）省，クーロン省（現在のティエンザン（Tiền Giang）省，ベンチェ（Bến Tre）省などにあたる）などに居住するとされている．それに対し，「ガイ」は，クアンニン（Quảng Ninh）省，カオバン

5）1979 年の表では，ハンは「ホア」の別称とされ，広東人，福建人，潮州人，海南人，ハなどは「ホア」のサブグループと位置づけられている［Tổng cục Thống kê 1979: 58-63］．一方，カイックザー（客家）は「ガイ」の別称とされている．ここで「ホア」のサブグループとして出てくるハ（Hạ）は，ベトナム南部客家の自称，ヘ（Hẹ）と同義である．ベトナム語では，ヘとハの発音はしばしば入れ替わる．ハは中国の最古の王朝としれる夏王朝から来ているという〈https://huvi.wordpress.com/2014/12/22/que-goc-nguoi-hakka-2/〉（2017 年 10 月 8 日閲覧）．この根拠は曖昧であるが，瀬川昌久が述べるように，自分たちの正統な起源を主張するために，客家が“由緒ある”夏王朝を持ち出してきたのかもしれない．一方北部では，客家（カイックザー）はカイックあるいはハッカと自称する．つまり 1979 年の時点では，南部の客家（ヘ）は，広東人，福建人などと並んで，「ホア」のサブグループとして位置づけられ，北部の客家（カイックザー）は「ガイ」に分類されていたことになる．

（Cao Bằng）省，ランソン（Lạng Sơn）省が居住地とされている．このことからも，1979 年当時，国家は，「ホア」は都市居住者あるいはメコンデルタ居住者であり，「ガイ」は北部農村居住者と認識していたことがわかる．

しかしながら，ベトナム共産党中央の意図は，ガイが居住する地方レベルにはうまく伝わらなかった．ルオン・ティ・チャン（Lương Thị Trang）の修士論文によれば，チャンの調査地であるバクザン省でガイと自称する人々は，1979 年より前には「ハン」，1979 年以降は「ホア」と申告するように，民族名登録の際に指導された［Lương Thị Trang 2017: 39］．チャンの聞き取りによれば，地元の当時の責任者は，「中国から来た者は誰でも『ホア』である」という認識だったという．

つまり，国家レベルとガイの居住地の地元レベルで，「ガイ」，「ホア」，そして「ハン」に関する認識がバラバラで統一されていなかったといえる．国家レベルでは，先にも述べたように，中国の影響から「ガイ」を引き離すため，あるいは「ホア」の範疇に入れないことで，中国と距離を置いた存在とするために，わざわざ「ガイ」をひとつの別の民族として認定した．しかしその意図は，末端の地元幹部レベルには伝わらず，「中国から来た者」として「ホア」としての登録を強要し，結果的に華人差別の対象にしてしまったのである．[6)]

中越関係が断絶していた 1980 年代以降，チャンなどの論文が出るごく最近まで約 35 年間，ベトナムでガイについての論文が書かれることはなく，いくつかの新聞報道などがあるだけの状況が続いた．その他の少数民族についての民族誌が量産されていたのとは対照的である．わずかな新聞記事にしても，さして新しいことを明らかにしているわけではなかった．食べ物や儀礼などに幾つかの特徴的な伝統文化を残していること，山間部に近い地域で農業に従事する人々と，沿岸部で漁業に従事する人々がいることに言及して，その生業の状況を詳述したも

6）本特集のグエン・ヴァン・チン教授の論文では，南部ドンナイ省のガイも，「ホア」に分類されていると指摘している．ドンナイ省のガイは，もともと中越国境のハイニン省に設立されていた「ヌン自治国」の住人で，1954 年の南北分断以降，南部に移住してきた．そのため，中越戦争の起こった 1979 年時点では既にドンナイ省に居住していたのであり，バクザン省のガイのように，国家の意図が末端の地元幹部レベルに伝わらなかったので，「ホア」と分類されたという説明はあてはまらない．しかし，1954 年に南部に逃げたガイの人々は，芹澤が呼称として「ホアヌン＝ヌン族の華人」［芹澤 2009］を使用しているように，ガイよりもホアヌン，あるいはヌンを自称として頻繁に使う．さらに，2016 年夏に実施したドンナイ省ガイ居住地域での調査では，バクザン省やタイグエン省と異なり，「自分たちは『ホア』ではなく『ガイ』である」というような主張は聞かれなかった．ハイニン省にあった「ヌン自治国」の元住民とその子孫で構成される南部のガイ（ホアヌン）と，バクザン省やタイグエン省に居残ったガイとは，既に歴史的な経験が大きく異なっており，かれらが「ホア」と認定されるようになった経緯も異なっていると考えられる．つまり，本文で述べたように，北部のバクザン省やタイグエン省のガイが，末端の役人に国家の方針が伝わらなかったために「ホア」と認定されてしまったのに対し，ドンナイ省のガイは，もともと「ヌン自治国」の住民であったため，ホアヌン，あるいはヌンという呼称が他称にも自称にもなっており，「ホア」と認定されることは自然であった．また，ガイもホアも 1979 年から 2009 年にかけて人口を減らしているが，これは，主に南部で，ホアやガイが，多数派のベト（キン）として登録した方がいろいろ都合がよいという判断から，ベトに民族籍を変更していることが原因である（これについては別稿を期す予定である）．ガイを自称する人々を「ガイ」と認めない傾向の反映ではない．

の，果樹の栽培などで経済的に以前より楽になってきたことなどを述べたものなどである．先行研究の類として言及するべきほどのものではない．[7)]

そのような状況が劇的に変わったのがここ 2-3 年で，ルオン・ティ・チャン（Lương Thị Trang）の修士論文「バクザン省ルックガン県のガイ人による越境移住労働」［Lương Thị Trang 2017］や，グエン・リン・フオン（Nguyễn Linh Hương）の修士論文「タイグエン省フービン（Phú Bình）県ドンリエン社ドンタム村におけるガイ人の結婚と家庭」［Nguyễn Linh Hương 2014］などが発表された．[8)]

チャンによれば，バクザン省のガイ居住地域のエスニック状況は，さらに複雑である．チャンは，「訪問したルックガン県のガイのほとんどの村（làng）には，ガイ語とカイック[9)] 語を話す 2 つのグループがおり，地元の人たちによると，2 つの言語は発音と語彙にわずかな違いがあるだけで，全て理解可能」［Lương Thị Trang 2017: 12］という．ガイはサンガイ（Sán Ngái）とも自称し，つまりはもともと「山の中の人間」であったという自己認識があり，カイックはもともと平野出身という意識があるとしている．ベトナム北部では，客家のことを，ハッカあるいはカイックと呼称しており，これは通常日本で客家と呼んでいる人々と同様のエスニックグループであると考えられる．チンは，ガイの方がカイックよりベトナムに移住してきてからの歴史が長いとしており［Nguyễn Văn Chính 2016: 13］，ベトナム東北部の丘陵・山間部には，出身地域は多少異なるが，客家系住民の移住の流れが長期に続いていたことが推測される．

同じくバクザン省での現地調査で，チャンはガイの移住経路を聞き取っている．それによれば，ガイの祖先は，福建，広東，広西から，防城（広西）に移住し，そこからベトナム側ハイニン省（現在のクアンニン省）のモンカイ（Móng Cái），ダムハー（Đầm Hà），ハーコイ（Hà Cối）に渡ってきて，そこからバクザン省，ランソン省，タイグエン省などに移動してきたという［Lương Thị Trang 2017: 12］．またチンによれば，ベトナムにやってきてからは，約 100 年強が経過しているという．またそれらのガイのうち，かなり多くの人々が 1954 年のジュネーブ協定後，南北が分断された際，南部に移住した［Nguyễn Văn Chính 2016: 3］．ハイニンにフランスがつくっていた「ヌン自治国」の住民だったため，あるいはフランス側の兵士な

7）〈https://vanhoanvietnam.blogspot.jp/search/label/%E2%82%AA%20%20D%C3%A2n%20t%E1%BB%99c%20Ng%C3%A1i〉

8）グエン・ヴァン・チン（Nguyễn Văn Chính）（2016）の論考は，顧問をしているベトナムの民族委員会（民族に関係する事象を担当する一省庁）で口頭発表されたもので，正式な論文としてはまだ公表されていない．

9）漢字をあてると，カイックは客である．田中智子によれば，もともと中国北部の中原地方，つまり黄河中流域にいた民族グループが，西晋時代（3-4 世紀）や唐代末（10 世紀頃）にかけて，戦乱を避けるために今日の安徽省南部や江西省などを経て南下したものが客家であるという説がある．これは，客家の「族譜」（系図）などの資料に基づいたもので，この「中原起源説」に従えば，客家語は中国北部の漢語諸語と同じグループであると予測される．しかし，基礎語彙などの言語的特徴から客家語とその他の漢語諸語を比べてみると，むしろ閩語や広東語のような南方の方言グループに近いものだ，というのが現在の言語学では通説になっている［田中 2012: 8］．〈http://www.aa.tufs.ac.jp/documents/training/ilc/textbooks/2011hakka1.pdf〉（2017 年 7 月 17 日閲覧）

どになっていた経歴のため，あるいは，社会主義政権による統治を嫌ったなどの理由である．

ガイについての最初の日本語による研究は，古田元夫の『ベトナム人共産主義者の民族政策史』［1991］に収められている．古田は，ガイを漢族の一サブグループとして捉えているが，チャンがふれた「ヌン」との関係にも言及しているので，引用してみたい．古田はガイの居住地をほぼハイニン省のみに限定して捉え，同著のなかの数節でガイについて紹介している．そして越北連区[10]の党委員会支部の資料とベトナムの民族学者の論文に基づき以下のように述べ，ガイが一時期「ヌン（Nùng）」[11]の範疇に入れられていたことを指摘している．

> ハイニン省にはガイ（Ngai）と呼ばれる民族が居住している．彼らはハイニンと境界を接する広西省の防城県出身の漢族系の集団で，抗仏戦争のころの人口は約10万人ほどであった．[12] ベトナムにかなり以前に移住し，農村地帯に居住して周辺のキン族やヌン族とあまりかわらない生活をしていた彼らは，都市を中心に形成されていた華僑の帮に参加せず，都市に住む華僑を「流民のガイ」と呼んで自分たちとは区別していた．フランスはこのガイのような集団を，「ヌン」として一括していた．そしてインドシナ戦争期に，ベトミン軍と対抗するためにフランスは東北地方にバ・サンを首領とする「ヌン自治国」を樹立したが，[13] それを支えた基盤はガイなども包摂した，「華僑」でもないが「ベトナム人」でもないという意味での「ヌン」だったわけである［古田 1991: 428-429; Nguyễn Trúc Bình 1973: 96; Việt Bảng *et al*. 1979: 6］．[14]

10）越北連区とは，1949年11月4日にベトナム民主共和国政府によって出された127法令によって設立された行政単位．それまでの1区と10区が合併した17省を含む．17省は以下のとおり．カオバン，バッカン，ランソン，タイグエン，ハザン，トゥエンクアン，ラオカイ，イェンバイ，ソンラ，ライチョウ，バクザン，バクニン，フックイェン，ヴィンイェン，フート，クアンイェン，ハイニン，ホンガイ特区，ホアビン省のマイダー県．Wikipedia Việt Bắc より〈https://vi.wikipedia.org/wiki/Vi%E1%BB%87t_B%E1%BA%AFc〉（2017年10月7日閲覧）

11）現在のベトナムでは，ヌンは，ベトナムの少数民族のなかで最多の人数を誇るタイー（Tày）と関係の近い同じタイ系民族とされ，東北山間部に多く住んでいる人々を指している．ごく簡単にいえば，中国側の壮族の祖先にあたる人々のうち，非常に古い時代にベトナムに移住してきたのがタイーの祖先で，新しい時代に移住してきたのがヌンである．タイーがベトナム王朝と密接な関係を築いたのに対し，ヌンはここ200年足らずの間にベトナムに移住し，先住のタイーと自分たちを差別化するために，中国文化を後ろ盾にすることが多かった．そのため，ヌンにはつい最近まで，広東語を話せる人々がかなりおり，華人にもベトナム人にもなれる立場にあった．しかし，ベトナムの国民国家建設の過程で，華人とヌンとの境は明確化し，タイーとヌンの一体化が進み，ヌンはベトナム国民の一部として位置づけられるに至っている．タイ系のヌンについてのより詳細な説明については，伊藤［2003］を参照．

12）“Tổng kết kinh nghiệm công tác miền núi,” [Đảng Lao Động Việt Nam Ban Chấp hành Đảng bộ Khu tự trị Việt Bắc 1971: 339].

13）バ・サン（Ba Sang）の漢字名は黄亜生で，ベトナムでは Vong A Sang（ヴォン・アー・サン）と呼ばれることが多い．

14）筆者は，「ヌン自治国」とフランスが命名したのは，「華人」などの語を使わずに，あくまで中国の影響からこの地域を引き離すためのフランスの方便であり，その主たる住民にはタイ系の「ヌン」はほぼ含まれておらず，大半が「ガイ」であったと考えている．（現在の民族名でいえば，一部に「サンジウ」が含まれている．）

また近年，客家研究者の河合洋尚と呉雲霞は，現地調査をふまえて「ベトナムの客家に関する覚書―移動・社会組織・文化創造」と，聞き取り調査の結果などを拡充した「ベトナム客家の移住とアイデンティティーンガイ人に関する覚書」の 2 本の論文［河合･呉 2014a, 2014b］を著している（河合はベトナムの国定民族としての「ガイ」をガイ族，その前身となるエスニック集団をンガイ人と表記している）．河合・呉は，かれらの移住先とされるホーチミン市，ビエンホア（Biên Hòa）市，中国側の華僑農場で調査を実施するとともに，1954 年に南北分断が決まった際，社会主義政権を嫌って南に移住しようとしたガイたちの集結地だったハイフォン（Hải Phòng）でも（ガイはいないものの，他の華人たちに対して）インタビューを行なっている．

その結果，客家と対比して，ガイの出自，移住，分布について以下の説を提示している［河合･呉 2014a: 95-97］．かれらの祖先の多くは，ベトナムに接する広西省防城港から，ベトナム領へ仏領期（20 世紀前半まで）に移住しており，なかでも防城港の那良鎮と那梭鎮をルーツとする者が多い．ベトナムでは中国と接するハイニン省を根拠地にしていたが，南北分断時の 1954 年に多くがハイフォン港経由で南部に移住していった．さらに中越関係が悪化してからは，1979 年以降，ベトナム東北部に居住していた大半のガイは，ベトナムを離れ，祖国である中国に戻った，あるいは「アメリカ，カナダ，オーストラリアなどに流出」したという．つまり，1954 年に南部に移住した者たちのうち，「少数が南部に留まっているが，ガイの根拠地であったベトナム東北部にはもういない」というのが，移住についての河合の結論となっている［河合･呉 2014a: 97］．

しかし，この解釈や先の古田の解釈には，公式文書には現れない（チャンなど最近のごく一部の論文を除いて），ハイニン省以外に住んでいる「ホア」に分類されている自称ガイが含まれていない．ガイは，フランスがハイニン省に 1947 年に設立した「ヌン自治国」の主要な住民であったが，ガイはハイニン省だけに住んでいたのではない．確かに「ヌン自治国」に居住していたガイの多くは 1954 年に南部に移住し，残っていた人々も 1978-79 年に中国に帰国したので，ハイニン省に限れば，河合の解釈は正しい．しかし，バクザン省や革命の根拠地に近かったタイグエン省には，現政権の革命に当時協力したガイもおり，1954 年に南に渡ることなく，また 1978-79 年にも居残った人々が現在でも相当数居住している．かれらのなかには現在，「私たちは『華人』ではない」として，「ガイ」への民族籍の変更を求めている人たちがいるが，本人たちの訴えにもかかわらず，「ホア」と認定されたままで，民族名を変更できずにいる．詳しくは 4 で詳述する．（ただし，ハイニン出身のガイと，それ以外のバクザンやタイグエンなどの省のガイは，ベトナムに移住してきてからの歴史的経緯が大きく異なるので，現在のかれらの自意識もかなり異なっていることに注意が必要である．）

河合は，ガイを客家のサブグループ，あるいは客家に含まれる人々と捉え，それなのにな

ぜ，ベトナムでは「ガイ」が別の民族として分類されているのかについても検討している．その結論として，ガイと客家は，ルーツ，言語などに違いがみられることを挙げている．ガイのルーツは先ほど述べたが，客家のルーツは広東省東部や中部の者が多く，移住時期は19世紀末から20世紀前半が多いという．筆者自身の聞き取りでも，ガイは客家語を聞いて理解できるが発音が異なると証言していたので，方言程度の違いだが，ガイとは「言葉が異なる」という認識もある．（チャンが明らかにしたように，ガイとカイックは同じ村（làng）に居住するケースが多いので，多くの年配のガイは，自分たちの言語と，客家語が大変近いが一部異なることを認識している．ただし，若者世代のガイとカイックは，互いに区別がつきにくくなっており，チャンによれば，「一体化が進んでいる」という（本人への聞き取りによる）．）

以上，ガイをメインにして書かれた主な先行研究を紹介した．「ガイ」の民族分類上の位置づけが二転三転し，しかも中国とベトナムの国家関係の変化に大きく影響を受ける存在であり続けていることが確認できる．

3．ベトナムの「華僑」・「華人」政策の推移

ベトナムの「華僑」・「華人」政策の変遷を古田［1991］によって概観し，「華僑」・「華人」と密接な関係にあるガイが置かれてきた歴史的背景をたどっておく．以下に示すように，「華僑」の法的な地位を確定した1871年の法令[15]で，「華僑」は「アジア外国人」という範疇に入れられていた．これは「原住民」と基本的には同等の扱いを受ける「外国人」という意味であった．具体的には，高田によれば，「華僑」は阮朝時代と同様に外国人として徴兵と夫役は免除されていたが，営業税ないし地租，人頭税を課されており，この人頭税は「アジア外国人」のみに課せられていたもので，「特権享受外国人」に対しては免除されていた［高田 1993: 112］．こうした「華僑」の地位は，中華民国政府が成立後，不平等条約撤廃の交渉に乗り出すなかで，中国人を他の外国人と同等の扱いにしてほしいという中国側の希望によって変更されることになり，1930年に締結された南京条約によって「華僑」には日本人や欧米人と同等の「特権享受外国人」という地位が与えられることになり［ルヴァスール 1944: 29-30, 56］，立法，裁判，訴訟手続に関する事項，民事，刑事，税務などについて，同等となったという［ルヴァスール 1944: 55］．しかし，日本の敗戦後，北部に進駐した蒋介石政府とフランスとの間で1946年2月28日に結ばれた中仏平等新約でも，法的手続きは全てフランス人と同等となったが，人頭税はベトナム人と同額になっただけで，廃止はされておらず［高田 1993: 118］，「華僑」の「特権享受外国人」としての地位は限定的だった．

古田は，ベトナム人共産主義者の「華僑」に対する政策の枠組みとして，「内部問題論」と

15）1864年7月25日のフランス大統領令第2条の解釈に関する1871年8月23日の行政長官令のなかに，原住民と平等に扱う外国人について列挙されている［ルヴァスール 1944: 20］．

「絆論」を提起している．まず「内部問題論」は，「華僑」をベトナム，インドシナの一少数民族としての「華人」として扱う考え方で，ベトナム人共産主義者は，ベトナムの闘争課題に積極的に応えるような政治的忠誠心のありかたを「華僑」に期待する．それに対し，「絆論」は，ベトナム人共産主義者が中国の革命運動ないしは政府との良好な関係を望んだ時に，中国人としての「華僑」に両国間の「絆」の役割を期待して出てくる考え方である．この場合には「華僑」が，「祖国」＝中国とすることを許容し，そのような忠誠心を組織した華僑団体との間の関係を強化することが，ベトナム人の党の役割になるという［古田 1991: 202］．

さらに古田は，フランス植民地政権と現在のベトナム共産党につながるベトナム人共産主義者がどのようなカテゴリーにガイを位置づけようと腐心してきたかを描写している．ベトナム人共産主義者側の捉え方も一定せず，当初はガイをヌンと同一視していたが，共産党から実際ハイニンに派遣されたメンバーに「華僑」が多かった華僑動員委員会のメンバーは，ガイを「華僑」として扱うことによってフランスの「ヌン自治国」の影響からかれらを引き離そうとした．これに対し，再びベトナム人共産主義者側は，ベトナムで生業を営み田畑を所有している人は「地元の人間」であって通常「ヌン」とみなされており，「華僑」は土地所有を認められないとして，「ヌン」という範疇にガイを包摂しようとした．古田は「これは，『華僑』の場合には，中国との国際協定によって地位が定められており，中国側の管轄権がおよぶので，それを回避しようとしたためであった」［古田 1991: 427］としている．この論理は実はフランスと同じであった．フランスは中国からベトナムにやってくる人々を概して「ヌン」と呼称していたからである．

古田はその後も，中国共産党との関係に配慮しながら，ベトナムの共産主義者たちがガイを革命に動員しようとした過程を描いているが，その政策は「内部問題論」と「絆論」の間を揺れ動くことになる．ベトミン軍の武装宣伝隊が強力な活動を展開していたところでは，ガイ自身が自分たちは「ベトナム人」であると主張するような状況も存在していた［古田 1991: 429-430］.[16] しかし，1948 年から 49 年にかけて，中国の解放軍が中越の国境地域で，ガイを「華僑」と認定して，「中国革命の利益への奉仕」を説くようになると事態は複雑化した．つまり，ガイを「ヌン＝ベトナム人」として扱っていたベトナム人共産主義者の方針との間に矛盾が生じたのである．そのため，1949 年 7 月に開催された第 1 連区の代表会議では，「ハイニンのガイに関しては当面国籍問題を提起しない」という方針が出された［古田 1991: 430］．さらに，1950 年の半ばまでには，ガイを「華僑」として扱うという決断をした．古田は，この措置を一見譲歩であったが，ガイを「華僑」の範疇に入れることと，かれらにベトナムの抗戦への積

16）このような「ガイ自身が自分はベトナム人である」と主張するような状況は，4 で取り上げるように，革命にも参加し 1978 年まで幹部を務めていたＴ・Ｄ・クイの証言などに実際に現れている．ただしこれは，タイグエン省やバクザン省のガイであってハイニンのガイではないことに留意が必要である．

極的協力を要求することは矛盾しないと考えた結果としている．当時の良好な中越関係を背景にした決断であり，「絆論」的措置の結果であったといえるだろう．

その後，1955 年に，ベトナム労働党は中国共産党との間で，ベトナム在住「華僑」について，合意が成立したとされる．この合意があったことを示す記録は今日なお非公開であるが，1978 年に両国関係の悪化が表面化し，両国が非難の応酬をするなかで，この合意に言及したことでその存在が明らかになった．古田によれば，合意は 3 つの柱を含むものであった．（以下，合意のなかの「華僑」の「　」は筆者が付したものである．）①ベトナム北部の「華僑」はベトナム公民と同等の権利を享受する．②ベトナム北部の「華僑」をベトナム労働党の指導のもとにおき，しだいにかれらをベトナム公民とする．③その間，ベトナム北部の「華僑」がベトナム公民としての義務を果たすように教育，説得する［古田 1991: 439］．また古田は「この合意がもたらしたもっとも大きな変化は，ベトナム在住の『華僑』に対するベトナム労働党と中国共産党の『二重指導』状況に終止符をうって，ベトナム労働党の一元的指導下におくことを明確にした点にあったと思われる」と述べている［古田 1991: 440］．

しかしながら，1970 年代末の中越関係の悪化，中越戦争に至り，ベトナムの「華僑」・「華人」政策は，国民としての「統合」や「包摂」から「排除」の方向に大きく転換する．古田によれば，ベトナム戦争中の 1972 年のニクソン訪中で中国に対する不信を決定的なものとしたベトナム人共産主義者は，1975 年に南北統一を達成した時には，中国を潜在的な脅威として認識するようになっていたという．このような両国関係を背景に，ベトナムは「内部問題論」の論理一本で，統一ベトナムへの華僑・華人の統合をはかることになった［古田 1991: 583］．つまりは，「華僑」に対してベトナム国籍を取得して「華人」になることを強制した．1978 年春には，北ベトナム在住「華僑」全体に対して国籍の最終的選択を求め，「華僑」にとどまる場合には外国人としてその就業などに制限が加えられることを明らかにした［古田 1991: 584］．中国はベトナムが「華僑を追放」しているとして非難し，これにベトナムは，中国と「華人」のなかの「悪質分子」が，「華人」の不安をかきたてて大量出国という事態を引き起こしていると反撃した［古田 1991: 584］．しかし筆者が，1990 年代後半にランソン省で，2015-17 年にハノイやハイフォンで行なった現地調査によれば，戦争が起こるとして中国側がベトナムに居住する中国系住民[17] に帰国するよう呼びかけていたのは確かであるが，北部の各省では，中国の影響を受けやすい中国系住民に恐れと不信を感じたベトナム側が，軍人や幹部などであった中国系住民を公職から追放し，圧迫したことも出国の背景にあった．さらに 2017 年 6 月のハノイでの現地調査により，首都のハノイでは，ベトナム人男性と結婚している女性など少数の例を除いて，「華僑」「華人」は強制的に中国へと追い出されたことが確認でき

17）華僑や華人だけでなく，中国からベトナムに渡った少数民族も含めるために，中国系住民という言葉を使用する．

た.[18] 実態は中国系住民にとっては，かなり苛烈なものであったと思われる．この 1978-79 年時点で，陸路では 25 万 1,000 人あまりが中国に渡り，28 万 8,000 人あまりがボートピープルとして周辺諸国に流入した［古田 1991: 585］．この大量出国は，ベトナム在住の中国系住民に家族離散を引き起こすなど，個々人の人生に大きな禍根を残し，ベトナム国家に対する根本的な不信感を中国系住民に植え付けることになった．

古田のいう「内部問題論」と「絆論」は，前者が「華僑」・「華人」をあくまで国民の一部として統合することを目指す政策，後者は「華僑」・「華人」を国民の枠組みには必ずしも入れずに，しかし完全な外国人ではない中間的な存在として，中国との間を取りもつ存在として位置づける政策と言い換えられるだろう．そう考えると，中国との関係が良好であった時に取っていた「絆論」的政策は，中国との関係が悪化すると機能しなくなり，「『華僑』・『華人』を国民の枠組みには必ずしも入れない」という前の部分だけが残って存続していくことになったのではなかろうか．つまり，1978-79 年を境に，「華人」や中国系住民は国民統合の対象ではなくなり，国民の枠組みの外に置かれて排除された存在となったのである．そう考えると，ガイが被った苦難の歴史も理解しやすくなる．

4．ガイの歴史―北部ベトナムに残った人々

筆者は 2015 年 3 月に，ベトナム北部バクザン省とタイグエン省において，ガイと自称する人々を対象に歴史に関する聞き取り調査を行なった．先にもふれたように，かれらは実はガイではなく「ホア」と登録され，身分証明書にも「ホア」と記載されている．なぜ，かれらはガイと自称しているにもかかわらず，「ホア」に認定されているのか．その理由も含めて，北部に居住するガイの歴史を，各個人へのインタビューをもとに，明らかにしてみたい．

筆者がインタビューした計 15 人のガイのうち，2 人の高齢のガイと，ガイと近接して住んできて周囲からガイと思われているキン 1 人の証言を，1945 年前後から 20 世紀の終わり頃までを対象に，ライフヒストリーとして紹介したものを稿末に付した．これらに基づき，ガイの歴史の特徴をまとめる．以下，①②③の番号は，稿末に収録したライフヒストリーのうち，①クアイ氏，②クイ氏，③ C 氏の証言に対応していることを示す．

先ほどもふれたように，基本的には中国の農村に広がった客家系の人たちが，ベトナムの丘陵・山間部の農村地域に国境を超えて移住してきたのが，ガイであると考えられる．現在，丘陵・山間部に分布して農業に従事している「ホア」と認定されている人々の多くは，ガイ，あるいは移住してきてからの歴史が相対的に浅いカイック（客家）[19] だといってよいだろう．ガ

18）中国国籍かベトナム国籍かという点はあまり重視されなかったようで，身分証明書にハンやホアと書かれている人たちは，軒並み出国を強制されたという．（夫がベトナム人だったため，ハノイに残ることが許されたホアの女性の証言．）

イは19世紀末から20世紀初頭にベトナムに入った人たちが多い．もともとは広東にいたという言い伝えをもつが，確かな歴史として確認できるのは，ほとんどが広西[20]からクアンニン省に入り，そこからバクザン省やタイグエン省にさらに移住してきたということだ．そして，落ち着き先で農業に従事した．1940年代半ばに，ベトナムの独立運動が盛り上がってくると，ガイのなかにもベトミンに参加する人が出るようになる（①②）．

そして，ベトナムが独立を果たした1945年以降，特に北ベトナムが国際的に統治を認められた1955年以降は，国家建設の過程で，民族平等の政策が実施され，ガイも多数派キンと同様に，幹部（公務員）や軍人になるなど，さまざまな活躍の場が保証されて，多くのガイがベトナム国民の一員との意識をもつようになっていった（①②）．ガイの証言からは，キンよりも活躍していた地域さえあったことがわかる（②）．タイグエン省内には，北東に革命の発祥地のひとつとして有名なヴォーニャイ（Võ Nhai）県があり，革命運動が盛んな地であったといえる．そのため，ホー・チ・ミンやヴォー・グエン・ザップなども，武装宣伝隊を率いて早い時期からタイグエン省を訪れており，ガイのなかにも，ベトナム人意識を高揚させて，ベトナム国家のために働くことを誇りとする幹部は珍しくなかった（①②）．

またこれら，中国から移住してきて2-3代目の人が多い現在の70歳代以上の世代は，漢字を勉強する伝統をベトナム語を勉強することにも転化し，勉強を続けた人が比較的多いため（①②），他の山間部少数民族に比べると，ベトナム語の識字率も高く，幹部に採用される割合も少数民族としてはかなり高かったことが推測される．

にもかかわらず，中越関係が悪化する1978年を境に，かれらの境遇は一変した．中国側から「華僑」・「華人」，中国系集団への帰国の呼びかけが始まり，かれらの忠誠心に疑念を抱いたベトナム側も追い出しにかかった．そのため，ガイは，幹部の地位を失ったり，党員は党籍を剥奪されたり，軍隊から追い出されたりし，埋められない喪失感を抱いた（①②③）．個人には何の咎もないにもかかわらず，それまで国民の一員として活躍していたのに，中越関係の悪化を理由に，国民ではないとして排除されたことに起因する，国家に「裏切られた」という感覚は，ガイを含め，ホアや中国系集団全体にとてつもない衝撃を与えたといえる．だからこそ，非常に多くの人々が中国へ脱出することを決断したのである．

1978-79年頃に海外に脱出した「華僑」・「華人」の人数は，南部の方が北部より多かったといわれるが，それはそもそも総数が南部の方が圧倒的に多かったからであって，割合としては，北部の方が「華僑」・「華人」の脱出はより徹底していた（②）．さらに北部の地方省より，ハノイの「華人」は徹底して追い出されており，家屋など不動産は没収され，キンと結婚して

19）5でふれるように，チャンの現地調査によれば，ガイが居住する多くの村には，カイック（客家）が共に居住しているケースが非常に多いという．

20）河合が指摘する那良の地名を挙げた者もいた．那良が属する広西は，当時広東省に属していた．

いる女性以外は，ハノイに残るという選択肢はほぼなかった.[21] また，南部の「華僑」・「華人」にとっては，社会主義改造は，資本家などから財産を接収するという共産党の政策としては予想のできるものだったのであり，「やっぱりそうだったか」という感覚で，意外では決してなかった．それに対し，北部のバクザン省やタイグエン省のガイたちには，国家に貢献してきた私たちが何でこのような目に遭わないといけないのかという，不条理に対する怒りが大きいため，国家に「裏切られた」という気持ちが非常に強く，南部の華人たちより「絶望感」が深かったといえる（①②）．その結果，ガイは多くの人々が 1978 年に中国へ向けて出国することになった.

そして，実は現在の若い世代に対しても，ガイへの差別は続いている．依然として公安（警察官）には決してなれず，そもそも警察官養成学校への入学自体が許可されない．また軍人や公務員（ベトナム語では幹部）にも依然としてなりにくい．公務員になれたとしても集落長止まりで，行政村の村長以上への道は閉ざされている（②）．集落長の給料だけではとても生活できないので，全員農業と兼業である．ベトナムの農村では，都市のように多様な職種はないので，公安，軍隊，公務員への道が閉ざされている，あるいは狭いということは，生活が安定しない，経済的に豊かになれないということも意味する．（この状況は 5 で述べるように，現在変化しつつある.）

冒頭で，ベトナムは，国民を明確に民族ごとに分類してふさわしい名称を決定し，それぞれに適切な政策を施すことで，諸民族の平等が達成でき国民統合につながると考えていると述べたが，「華人」や中国系住民の場合は，民族分類，民族籍こそが差別を生み出す源になっている．「少数民族政策」として一律に語られがちだが，華人については，他の少数民族とは異なり，国民統合の対象からはずれてしまってからの期間が非常に長いことを考慮に入れて，歴史を考える必要がある.

今回インタビューに応じてくれたガイの人たちの身分証明書には一律に「ホア」と記載されていた．多くの人が，「自分たちは『ガイ』であって『ホア』ではない.『ガイ』と言っても勝手に『ホア』と書かれる．民族名を変えてもらいたいが聞き入れられない」と訴えていた．ガイが都市に住む他の華人たちと自分たちを区別して考えているということは，先行研究でも仏領期から既に確認できると指摘されていて［Việt Bảng *et al.* 1979: 6］，現代になってからの新しい現象ではないが，そこに込められる意味には新しい要素があるだろう．つまり，「ホア」であれば「華人」として差別の対象になるが，「ガイ」と認定されればベトナムの少数民族のひとつとして扱われるのではないかという期待である.

先に，ガイは歴史的に「ヌン」の範疇に入れられていたことがあることを指摘したが，「ヌ

21）ハノイの華人たちの歴史については，別稿を期したい.

ン」は現在は通常のベトナムの少数民族のひとつと位置づけられ，タイ系のタイー族と近い存在であると認識されており，「ヌン自治国」の成員である「ヌン」とは区別され，かれらに対しては何の差別的な政策も取られていない.[22] それどころか，進学などに際し「ヌン」には他の少数民族と同様手厚い優遇がある．バクザン省やタイグエン省などでは，タイ系の「ヌン」はガイの周辺にたくさん居住している．一時期は漢族系集団に近いとみられていた「ヌン」が，「タイー」と近いタイ系の一少数民族[23] とみなされるようになり，優遇政策を受けているのを，ガイは間近に目にしている．つまり，差別政策が水面下で残る「ホア」ではなく「ガイ」と名乗ることで，「ホア」とは距離を置き，「ヌン」のように一少数民族として認められたいという願望が，かれらの訴えには込められているように思われる.[24]

5．ガイの中国への出稼ぎ

このような状況にあるガイの人々だが，多くの人々が 1978 年に大量に中国に出国したことにより，1991 年に両国関係が正常化した後は，ベトナムに残った家族や親戚と中国に渡った人々との間に，強力なネットワークができることになった．ここでは，2000 年代後半から増加し，ここ数年非常に目立っているベトナム東北地方から中国への違法出国による大規模出稼ぎについて，この移住労働のきっかけが，ガイのネットワークであったことを明らかにするとともに，筆者の聞き取り調査と，先にもふれたルオン・ティ・チャンの修士論文に基づいて，ミクロレベルから，ガイ人が中国側にもつようになったネットワークがどのようなものなのか検討したい.

チャンも論文のなかで繰り返し述べているが，この移住労働は政治的に非常に微妙な問題である．ベトナムでは違法出国して労働することは，ベトナム社会の安寧秩序にかかわる問題と捉えられており，ましてや中越関係が領土や資源をめぐる争いにより，悪化している現在，中国に広がる親族ネットワークを利用するということは「反国家的」な行為と，ベトナム国家だけでなく反中国感情の強い国民からもみなされかねないからだ．そのため，現在のところこの移住労働に関する本格的な研究はチャンの論文以外になく，幾つかの新聞報道が言及するのみである.[25] また，同様の理由から，インタビューを受ける側は極めて口が重く，親戚のつてをつたって村に入ったベトナム人であるチャンでさえ，「公安か」などと不審がられ，また何度

22）「ヌン」という範疇の歴史的な変遷や，ヌンをめぐる 20 世紀の歴史については，［伊藤 2003］を参照.

23）タイーとヌンの関係については，［伊藤 2003］を参照.

24）しかし，かれらの願望がたとえかなえられても，政府の水面下の差別政策は消えない可能性が高い．現政権にとっては，「ガイ」はフランスがつくった「ヌン自治国」の成員で，フランスの植民地支配に加担していた者たちであり，「タイー」とともにベトナム戦争時から国家に貢献した人も多いタイ系の「ヌン」とは，かなりイメージが異なるからである.

25）Ngọc Anh (2015), Xuất cảnh trái phép sang Trung Quốc lao động: Rước họa vào thân〈http://baobacgiang.com.vn/bg/an-ninh/151122/xuat-canh-trai-phep-sang-trung-quoc-lao-dong--ruoc-hoa-vao-than.html〉(2017 年 7 月 17 日閲覧)

もインタビューの意図を説明して協力を取り付けておいたにもかかわらず，周りの家族から，「（質問票に答えたら）捕まるかもしれないからやめておけ」などと口を挟まれて，回答を突然拒否されるなど，なかなか証言を得るのに苦労し，村人と親しくなり村に受け入れてもらうのにかなりの時間を要した．31 人に質問票を記入してもらうのに，3 週間近くを要したという［Lương Thị Trang 2017: 32］．このような状況下で，調査を敢行したチャンの論文は大変に貴重である．[26)]

チャンがフィールド調査の舞台として選んだのは，バクザン省ルックガン（Lục Ngạn）県タンホア（Tân Hoa）社ヴァットゴアイ（Vặt Ngoài）村である．ルックガン県は，中国への違法出稼ぎが最も多い県であり，タンホア社はビエンドン社，ドンコック社，デオザー社と並んで出稼ぎが多い行政村である．統計上，ホアは 2009 年の全国人口調査では，北部においてはバクザン省に最も多く居住し，その数は 18,539 人である［Lương Thị Trang 2017: 39］．このなかには，ガイと自称しているのに「ホア」と登録されている人々が多くいる．

タンホア社の人口は 6,635 人（1,496 戸）で，12 の村からなり，9 民族が暮らしている．[27)] 少数民族が全人口の 70.02%の 4,646 人を占め，ガイと自称しているが「ホア」として登録されている人々は 11%の 730 人である［Lương Thị Trang 2017: 48］．ガイはそのほとんどが，ヴァットゴアイ村に居住している．農業に従事する人口が 67%を占め，かつては水稲耕作ばかりであったが，最近はルックガン県の特産品にもなっているライチの生産を行なっている農家が多い．

最初にこの出稼ぎを始めたのは，南に隣接したドンコック（Đồng Cốc）社のガイだった．親戚を訪ねたガイが広西の工場で働いたのが初めといわれ，両国関係が正常化してすぐの 1991 年ともいわれている．1990 年代半ばにはガイが違法出国して広西，福建，上海などの工場で働く例が既に複数みられたが人数的にはごく少数だった．1996-97 年頃，中国側から遊びに来た親戚が，ベトナム側のガイが依然として苦しい生活をしているのを見て，中国に出稼ぎに来ないかと誘い［Lương Thị Trang 2017: 46］，その後サトウキビ伐採を手伝いに行ったベトナム側のガイが，収穫のための人手が足りないことを広西で見聞きして，翌年からもっと多くの人たちに声をかけみなで働きに行った．そのドンコック社から親戚がタンホア社に遊びに来てサトウキビ伐採の出稼ぎの話をし，今度はタンホア社からも親戚が働きに行くという風に，

26）ただでさえ，中越関係が領土・領海問題で悪化している最近の国際情勢の下，外国人による山間部地域での本格的な調査は許可されなくなっている．ましてや，このような微妙な問題を，外国人が研究することはほぼできないといえる．

27）「キン」「ホア」「タイー」「ヌン」「カオラン」「サンチー」「ムオン」「ザオ」「サンジウ」の 9 民族．先にも述べたように，この「ホア」にはガイと自称している人々と，カイックと自称している人々が含まれる．また，国家が認定している 54 の国定民族の分類では，カオランとサンチーはひとつの民族「サンチャイ」としてくくられているので，正確には 8 民族である．サブグループの位置づけに過ぎないカオランとサンチーが別の民族として統計が出されている背景については，［伊藤 2008］を参照．

連鎖的にまた急速に違法出稼ぎは増加した［Lương Thị Trang 2017: 57］．このように，ガイの親族ネットワークが，中国への出稼ぎのきっかけをつくったといえる．この中国側に延びるネットワークは，1978 年のベトナムから中国への大量の華人系住民の帰国によって形成されたものである．100 年以上も前に移住してきた時の親族ネットワークではないことは重要な点である．

サトウキビ収穫のための出稼ぎは，ベトナム側が農閑期となる 12 月からテトにかけて，1ヵ月から 1ヵ月半ほど，あるいはテト後から 2 月末，3 月のはじめくらいまでの期間に行なわれる．比較的短期だが，家庭の中心たる父親や，未婚の若者が行く場合が多い．さらに母親も一緒に行く場合も多いため，祖父母と小さな子どもたちだけが残っている家庭も多い．

筆者が行ったバクザン省ルックガン県でのタイ系のヌンからの聞き取りでは，ガイのように，親しい親戚を介して行っていないため，ヌンの出稼ぎの手順は以下のようであった．バクザンからの主な行き方は，既に何度も広西に出稼ぎに行き，広西の壮族の雇い主と親しくなって，出稼ぎ労働者から仲介者に転じた人物に連れられて，車でランソンへ行き，仲介者がベトナム側の国境防備の警察官にお金を渡して（1 人分 10 万ドン＝約 500 円），違法出国を見逃してもらう．多い日だと中国との間の検問所を一晩で 1,000 人が越えるという．そして夜中にチマ（Chi Ma）[28] の国境検問所を抜けて，6-10 人乗りの車に乗ってベトナム人労働者の多い地域へ行き，雇い主がベトナム側から来た労働者を選ぶ，そして夜通しの移動のため翌日は休み，次の日から労働を開始する．

チャンによれば，雇い主同士のネットワークもあり，雇い主間で，人手のやりくりをすることもある．労働時間は，雇い主や地域によっても異なるが，朝 7 時から 12 時まで，また 13 時から 18 時まで働く，つまり昼食を畑で食べ 1 時間しか休まず，1 日 9-10 時間労働したり，朝は 6 時くらいからと早いが，12-15 時は昼寝をして，また午後 18 時まで働くなどのやり方がある．給料支給方法も，収穫量をトン数で量るものと，1 括り（15 キロ）のサトウキビが何括りあるかで計算するものなどがある．テト前 1ヵ月間に行くと 4-500 万ドン（2 万から 2 万 5,000 円）ほど，テト後 1ヵ月だと 3-400 万ドン（1 万 5,000 から 2 万円）ほど，稼ぐことができる．1 括り（10-15 本）は約 15 キロで 1 元（3,000-4,000 ベトナムドン，30-40 円）で，1 日の 1 人の収穫量は 500-600 キロになる．

国境を違法に越えて行くのは大変で，夜雨が降っていたりすると寒く，岩山をよじのぼるのは滑りやすく危険で，国境防備の公安も怖い．もし中国側で警察に捕まると，顔写真を撮られ指紋を取られ殴られて，稼いだ金も没収される．そして草取りをさせられたり，豚小屋の掃除をさせられたりなど数日から 3ヵ月の公益労働を強制される．もし 2 回目に捕まると 3 年間服

28）チャンによると，チマの他，モンカイ（クアンニン省）やタンタイン（ランソン省）などで国境を越えるルートもある［Lương Thị Trang 2017: 82］．

役せねばならず，仲介業者は捕まると約 4 年間の服役となる．貧しく経済的動機で行く人も多いが，土地を所有し，かなり経済的に余裕のある家の人も行っている．村には，農閑期に毎日 1,000 円も稼げる稼ぎ口はないので，仕事は厳しいが行く人が多い．

しかし，この出稼ぎを通じて，多くの世帯が以前に比べて生活が楽になったと感じている．サトウキビ伐採以外にも，中国への出稼ぎは工場労働や林業分野などもあるが，たとえば，2000 年代はじめまでは食べていくだけで精一杯であったが，2000 年代後半くらいから，それまで土壁の瓦葺きの平屋だった家屋を，レンガづくりの 2 階建てに建て替える家族が増えた［Lương Thị Trang 2017: 126］．さらに，子どもの教育費につぎ込んだり，テレビや冷蔵庫，机やいすなどの家具や，ガスレンジなどを購入したりする人々も増加している［Lương Thị Trang 2017: 122-128］．先に述べたとおり，微妙な問題であるため，出稼ぎによる収入についても，本当の金額を言わない人が多いという［Lương Thị Trang 2017: 123］．そのため，正確性に問題は残るが，チャンの試算によれば，総収入の 20-40％を出稼ぎによる収入が占める．

広西のサトウキビ収穫のための出稼ぎは，ガイから東北山間部の主要民族であるタイーやヌンなどの周辺の少数民族へ，そして最近はキンにも広がり，また地域的にも中越国境の住民だけでなく，ゲアン（Nghệ An）やタインホア（Thanh Hóa）などベトナム北中部にまで拡大している．違法出国であるので，どれだけの人が出稼ぎに行っているのか，正確な数値はわからないが，恐らく 10-20 万人にのぼるのではないかと思われる．東北山間部では，サトウキビの収穫期には，村に高齢者と小さな子どもしか残っていない現象が起こっているところが多く，相当数の人間が出稼ぎに行っていることは確かである．

しかしながら，経済的な需給の必然性から出稼ぎは中越双方の住民にとって欠かせないものとなっているものの，最近の国家間関係の悪化に影響をうけることもある．2013 年に南シナ海（ベトナムでは「東海」と呼ぶ）で領土問題が先鋭化し，両国関係が極度に緊張したが，多くのベトナム側のガイの家族は出稼ぎに行っている息子・娘を心配し，戻ってくるように頻繁に連絡したという［Lương Thị Trang 2017: 139］．実際に途中でベトナムに帰国したガイもいた．結局出稼ぎ者への実害はなかったが，1978-79 年の中越関係悪化時の記憶のある年配の世代は，出稼ぎに行った親に代わって村に残り孫の面倒をみているため，両国関係の悪化が大きな心労となったと思われる．しかし，「ベトナムに帰ってこい」と子ども世代に促すこと自体，現在のベトナムのガイたちが既にベトナムの現住地を自分たちの居場所であると認識していることの現れでもあろう．

このように，中越関係の影響をうけやすい不安定さはあるものの，若い世代のガイは独自のネットワークを使って，私的領域を開拓することによって，公的には閉ざされた人生の道を開き，豊かになる道をみつけているといえる．

6. 終　わ　り　に

「ガイは帰らせられた cho về」「ガイだから追われた，追い出された bị đuổi」と，証言をしてくれた男性のお年寄りたちは，何度もこれらの言葉を繰り返していた．「昔は中国が帰ってくるように呼んだので，多くの人たちが帰った．今はそういうことはしていない．しかし，ベトナムではガイは未だに入党できず，公安や国防関係にも入れない．また幹部になれたとしても集落長がせいぜいで，高位の幹部には出世できない」など，差別の実態を訴える声は素直で，口惜しさに満ちていた．国家関係に左右されて変わってしまった自分の人生に対する口惜しさが伝わってきて，大変印象的だった．

これら，国家が実施している制度的差別はもちろん明文化はされておらず，表面化しないので，多数派のキンはほとんど知らず，またキンのなかには実態を認めようとしない人も多い．しかし，北部のガイの側が，そのように理解していることは確かであり，これまでの経験から，「諦め」のようなものがある．

グエン・ヴァン・チン教授によると，ベトナムの民族学研究所をはじめ，民族に関する研究をしている部門，特にハノイに拠点を置く部門では，華人の研究をタブー視している．チン教授によると，「華人研究にもっと力を入れるべきだ．ほとんど研究されていない」と指摘しても，民族学研究所所長など要職にある人たちの反応は，「もうやっている．必要ない」というものだという．現在の民族学研究所所長は，代替わりしており，筆者が「はじめに」でふれた人物とは既に別人だが，少数民族の文化人類学的研究が専門の民族学研究所のスタンスは一貫して変わっていないようである．

筆者は，華人や漢族系集団の研究が一種タブー化している理由は，かれらが 1978 年の「華僑」脱出や中越戦争をきっかけに，国民として統合する対象とみなされなくなり，現在までその状況が実は続いていることの反映ではないかと考えている．華人研究を進めれば，国際関係の犠牲になったかれらの歴史にふれざるをえなくなり，また依然としてかつての「平等」を取り戻していない現状も明らかになってしまい，都合が悪くて取り組めないと推測される．

そして，本稿では，現在ガイが中国と強い結びつきをもっているのは，ベトナム国家の政策のゆえであることも明らかにできた．1970 年代末，鋭く対立するカンボジアのポルポト政権を中国が支持・援助するという国際情勢の下で，ベトナムが北部と南西部から挟撃されるという恐怖にかられたことが背景にあるとはいえ，中国の手先になった，あるいはなりうるとして，華人やガイなどの中国系住民を極度に警戒し，追放したり，社会的に排除する措置に出たことが，かれらを中国に帰らせる原因となった．農村に住むガイは，町に住む華人よりもベトナムに移住して来てからの歴史が長く，1978 年の時点では，既に中国側の親戚とのつながりはほぼなくなっていた．しかし，1978 年に多くのガイが中国に渡ったことで，ベトナム側に

残ったガイは，強い結びつきのあるネットワークを中国側に新たにもつことになったのである．78 年から現在までまだ 40 年に満たない．つまり，多くのガイが親・兄弟，子どもなどの家族，いとこやおじ・おばなど近い親戚を，中国に有しているのであり，強い結びつきが存在しているのは当然ともいえる．毎年の出稼ぎで，ガイの若者世代には中国語（普通語）が堪能になる者も生まれつつあり，若者世代のガイの中国側との結びつきは，強まっているとさえいえる．皮肉なことに，ガイに対するかつてのベトナム国家の排除政策が，ベトナム化が進みつつあったガイを，再び中国に近い者としてしまったわけである．

ガイや華人に対する明文化されない差別は依然として存在しているが，中国側に広がるこの強力なネットワークを利用して，若い世代のガイは出稼ぎに行き，国家の手を離れたところで，自ら豊かになる道を開拓した．しかしながら，中国との関係が領土や資源をめぐって極度に悪化してきた現在，華人や漢族系集団が再び政策の犠牲になって国家関係に翻弄される可能性はないとは言い切れない．政策の犠牲になった世代のガイの恨みの声は切実であり，次の世代を同じ過ちの犠牲にさせないためにも，かれらの生きてきた軌跡を明らかにすることは大切である．

振り返って自身の居住する国家のことを考えると，隣国韓国との関係が悪化するなかで，韓国・朝鮮にルーツをもちながら日本に居住するいわゆる「在日」の人々への激しい憎悪がヘイトスピーチなどの攻撃的な形で噴出している．また，高校の授業料無償化から朝鮮学校を外した国の処分に対し，各地で裁判が起こっているが，おりしも広島地裁が「適法」との初判断を下した．朝鮮学校側は，差別的な取り扱いで憲法の平等権に反すると主張したが，判決は，民族を理由としたわけではなく，合理的な区別にあたると結論づけた．[29] これらの例は，個人の独立したあり方を認めず，個人を国家に属する存在とみなす，ベトナム国家の華人政策と根を同じくするものだ．ベトナム国家が，ガイの人々と中国国家を同一視したことで引き起こされた差別政策は，かれらの人生を大きく左右し，心に深い傷を残すことになったのは本稿でみてきたとおりである．ガイの問題を考えることは，日本自身の問題を考えることでもある．

謝　辞

本稿の元になった現地調査や資料収集は，以下の 2 つの研究資金により可能となった．記して感謝申し上げる．

2014 年度 JFE 財団アジア歴史研究助成「国際関係のなかの華僑・華人―20 世紀以降のベトナムを舞台として」．

2016～19 年度（予定）科研費 B「ベトナム・中国二国間関係の下で揺れ動くベトナム華人に関する歴史的研究」．

29)「政治的な差別」訴え届かず　無償化除外「適法」朝鮮学校側が敗訴．（『朝日新聞』2017 年 7 月 20 日朝刊 13 版 31 頁）

引　用　文　献

日本語

古田元夫．1991.『ベトナム人共産主義者の民族政策史―革命のなかのエスニシティ』大月書店.

伊藤正子．2003.『エスニシティ〈創生〉と国民国家ベトナム―中越国境地域タイー族･ヌン族の近代』三元社.

_____．2008.『民族という政治―ベトナム民族分類の歴史と現在』三元社.

河合洋尚・呉　雲霞．2014a.「ベトナムの客家に関する覚書―移動・社会組織・文化創造」『華僑･華人研究』11: 93-103.

_____．2014b.「ベトナム客家の移住とアイデンティティーンガイ人に関する覚書」『客家与多元文化』9: 26-51.

ルヴァスール．1944.『仏印華僑の統治政策』成田節男訳，東洋書館.

西川寛生訳・著．2000.『ベトナム人名人物事典』暁印書館.

瀬川昌久．1993.『客家―華南漢族のエスニシティーとその境界』風響社.

芹澤知広．2009.「ベトナム・ホーチミン市のヌン族の華人」『フィールドプラス』2: 6.〈http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/65291/1/field-2_p06.pdf〉

高田洋子．1993.「第 3 章　ベトナムにおけるフランス植民地支配衰退期の華僑統治と中国」（第 1 部　東南アジア華僑の組織的政治・社会活動と各国政府の対応）原不二夫編『東南アジア華僑と中国―中国帰属意識から華人意識へ』アジア経済研究所，105-131.

田中智子．2012.『客家語入門』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

ベトナム語

著者名無し．1959. *Các dân tộc thiểu số ở Việt Nam*. Hà Nội: NXB Văn hóa.

Đảng Lao Động Việt Nam Ban Chấp hành Đảng bộ Khu tự trị Việt Bắc. 1971. *Văn Kiện của Đảng Bộ Liên Khu Việt Bắc VI, Ban Nghiên cứu lịch sử Đảng Khu tự trị Việt Bắc*.

Lương Thị Trang. 2017. *Di cư lao động xuyên biên giới của người Ngái ở Lục Ngạn, Bắc Giang*, Luận văn thạc sĩ, chuyên ngành nhân học, Trường Đại học khoa học xã hội và nhân văn - Đại học quốc gia Hà Nội.

Nguyễn Linh Hương. 2014. *Hôn nhân và gia đình của người Ngái ở thôn Đồng Tâm, xã Đồng Liên, huyện Phú Bình, tỉnh Thái Nguyên*, Khóa luận tốt nghiệp khoa nhân học, Trường Đại học Xã hội và nhân văn - Đại học Quốc Gia Hà Nội.

Nguyễn Trúc Bình. 1973. “Các nhóm Hóa và vấn đề thống nhất tên gọi,” *Tạp chí Dân Tộc Học* 3: 95-98.

Nguyễn Văn Chính. 2016. *Từ những mảnh vụn của ký ức : Người Ngái, các nhóm địa phương và quan hệ Hoa - Ngái ở Việt Nam*, Bài viết cho Hội nghị Thông báo Dân tộc học, Viện Dân tộc học.

Tổng cục Thống kê. 1979. Quyết định 121-CCTK/PPCĐ ngày 02/3/1979 của Tổng cục trưởng Tổng cục Thống kê về Danh mục các thành phần dân tộc Việt Nam, *Tạp chí Dân Tộc Học* 1: 58-63.

Viện Dân tộc học, Ủy ban khoa học xã hội Việt Nam. 1975. *Về Vấn đề xác định thành phần các dân tộc thiểu số ở miền Bắc Việt Nam*. Hà Nội: NXB Khoa học xã hội.

Việt Bảng, Diệp Trung Bình, Thi Nhị. 1979. “Người Hoa, người Ngái ở Việt Nam và âm mưu của chủ nghĩa ba quyền Trung Quốc,” *Tạp chí Dân Tộc Học* 2: 6.

オンライン記事

ベトナム 54 民族の文化．〈https://vanhoanvietnam.blogspot.jp/search/label/%E2%82%AA%20%20D%C3%A2n%20t%E1%BB%99c%20Ng%C3%A1i〉（2017 年 7 月 17 日閲覧）

資料　3 例のライフヒストリー

① P・T・クアイ（P T Quay）氏，バクザン省ルックガン県フーニュアン社（社は行政村の意味，いくつかの自然村から構成される）コウヴォン集落（Bắc Giang, Lục Ngan, Phú Nhuận, Cầu Vồng）在住，1939 年生（インタビュー当時 77 歳，男性）

フランス統治時代，自分の祖父の代に中国の情勢不安定のために，広西からベトナムに逃げてきたと聞いている．最初はティック（Thích）村【現在どこにあるのか特定できない】（【　】内は筆者補，以下同じ）というところにおり，その後バクザン省ソンドン府イェンディン社カップゴア集落（Sơn Động, Yên Định, Cặp Ngõa）に移住し，そこから恐らく 1938 年頃にここ（コウヴォン集落）にやってきて，自分はここで誕生した．

抗仏戦争【1945 年以前の対フランスの戦いのことを指している】の頃，自分は幼な過ぎたので，あまり覚えていない．父は仏領下では看守（地方の見守りにあたった官）をしており，徴税隊長のようなものだった．

父たちは，何人かでお金を出しあって，同じガイのソー・サオ（Sổ Sáo）という名前の先生を中国から招き，私は 1945 年頃 1 年間くらい，その先生について漢字を勉強した．当時は 7-8 歳だった．漢字は難しく 1 年くらい習っただけでは何の効果もなく，その後忘れてしまった．自分以外に，ターイホー（Tải Hồ）【場所不明】，トゥンティン集落（Thùng Thình，隣のビエンドン（Biển Động）社），隣のドンコック（Đông Cốc）社，遠くは直線距離で 8 キロ以上離れたゲオ集落（Nghẽo，ソンドン県トゥアンダオ（Tuấn Đạo）社）などの集落から経済力のある家のガイの子どもたちが集まって学んでいた．自分は通っていないが，ルックガン県の中心，チュー（Chũ）の街には中文学校が 1978 年まであり，まじめに勉強する子どもたちが通っていた．美しい建物だったが今はない．

仏領下では 1950 年から社のなかのコウヴァン（Cầu Ván）集落（現在社の人民委員会が立地）にある亭（ディン）でベトナム語の読み書きを 2-3 年習った．先生はキンのゲ（Nghê）先生．生徒は男の子たちだけだった．その後 1952-54 年頃にかけて，学費を払い，3-4 キロ離れたザービエン（Ra Biên，ビエンドン社）にあったフランスがつくった学校へも通った．ビエンドンの学校には，後に地主に認定されたムイさんの娘など裕福な家の女の子も通っていた．

しかし，1954 年にフランスが負けて学校はなくなったので，家で農業をした．夜は民主共和国がつくった補習学校へ行かねばならないことになり，再び学校通いをしてベトナム語を学んだ．

土地改革の時は発動の年は何もなかったが，翌年我が家は富農で地主と認定された．しかしその後認定には間違いがあったということになり，最後には中農と訂正された．この集落で地主と認定されたのは，結局トー人[30] のジン・クーン・フィ（Dìn Coỏng Phi）（通称ムイ Múi）という人で，フランス統治下で役職についていた．かれらはその後，3 人の息子と一緒に 1954 年にラムドン省に移住した．サイゴン解放後，フィ氏の息子のひとりで，昔漢字を一緒に学んだ友達がいたので，生きているかどうかと思って会いに行った．会えたがその後交通事故死してしまった．

ガイのなかにも地主に認定された人はいた．隣のドンコック集落のポー（Pầu）さん一家．認定は誤っていたが，ポーさんは全ての財産をとられ，その後間違いだったとされたが，彼には結局鉈（なた）と犂しか残らなかった．

30）ここで「トー」といっているのは，地元の人間という意味で，漢字では「土」の字があたる．タイ系の「タイー」（Tày）のことである．タイーは，比較的早い時代に中国南部からベトナムに移住してきたため，広い土地を占めることができ，ヌンなどに比べると，土地持ちであったため，比較的裕福で，社会の上層に属す者が多かった．したがって，地主に認定された者も多い．

そのうち合作社の組織化が始まり，ベトナム語の文字を知っているからとさらに勉強するように言われ，1960 年秋から会計の勉強をしに行かされた．戻ってから合作社の会計係をした．1967-69 年にかけては社の常務委員，1969-74 年にかけては社の政治委員を歴任した．1978 年以前は何の差別もなく，年寄りのガイの男性のなかには古い幹部がたくさんいる．当時は入党するのがはやり，そういう風潮だった．抗米戦争中はよい仕事をすれば，党からさらに責任を委ねられ，任務を完遂すれば入党が許され，履歴をこまごま調べたりしなかった．当時の党の指導者たちは思慮深く，ガイに対して偏見をもったりしていなかった．履歴を調べたりするのは，平和な時代になってからやり始めたことだ．抗仏戦争に参加したガイはいないが，抗米戦争に軍人として参加したガイはたくさんいる．

しかし，1978 年以降は，ガイは軍隊には入れなくなった．息子も軍隊へ行っていたが，78 年に戻された．1978 年多くの人が中国へ帰ったが，自分はかつて社の仕事をしていたし，党員だったから帰らず，その後も仕事を続けようとした．しかし，ガイの幹部たちは県に呼ばれて，宣伝と教育担当の幹部たちから「中国とベトナムの間には矛盾が生まれている．わが党が同志たちを誤って入党させた．このように二国間に矛盾が出てきたからには，同志たちはしばし休んでくれ」，「党組織のなかに君たちがいることは正しくない，もう仕事をしないでほしい」などと言われた．それで党から追い出されてしまった．それで，妻や子にもそのように告げて，それ以後農業をしながらここで生活をたててきた．

母は父を亡くした後，ゴ（Ngô）家の男性と再婚して，自分とは腹違いの弟を生んでいたが，この弟 N・M・ハン（N M Hán）は 1978 年に，妻と息子夫婦，娘など 7-8 人で中国へ帰った．姉の家族も中国へ戻った．あちらに親戚や知りあいがいたわけではない．当時，出国するかどうか悩んで親戚や友人が訪ねてくると，自分はどこに行ってもどうせ何かが足りないと諭していた．[31] 当時，ホアは皆落ち着かない状況だったから，少し話すとみんな帰って行った．こまごました噂が飛び交っていて，自分も怖いと思った．しかし，父方の祖父母は確かにあちら（中国）で生まれたが，自分は今中国へ行ってもどこが故郷なのかもわからない．だから，自分はここで実直に仕事をしていこう，きっと自分たちの国家は自分たちを捕まえて牢屋に入れたりはしないだろう，それなら自分は食べていければ別に問題はないと考えた．

民族衣装も 1978 年以降は着なくなった．それ以前は普通に着ていたが，今は昔の服も折りたたんで片づけてある．布地はカオラン[32] から購入し自分たちで仕立てていた．前は斜めの布で止める．キレでくるんだボタンがついており，頭の被り物もあった．衣装はホアの服によく似ている．ゴムで締める黒ズボンを下にはいていた．市場に出かける時や宴会の時に着ていたが，今はもう縫い手もいない．男性の上着は青色の中国服のようなもので，着ないし古くなり売ってしまった．ズボンは紛失した．

この集落から中国へ帰ったのは弟の家族を含め，3 戸ある．弟のハン自身は亡くなったが，子どもたちの家族は福建省の華僑農場におり，時折電話してくる．遊びに来いと言われていたがもう年を取ってしまったので行けない．あちらは既に孫の世代がほとんどで，手続きは簡単で証明書を申請するだけだが，こちらは漢字も知らないし中国語もわからないし，行くと迷惑がかかるだけなのはわかっているから行かない．

母の兄（既に死亡）が 1954 年に南に移住し，ラムドン省ドゥックチョンの街に住んでいたので，抗米戦争が終わってから 1978 年になって遊びに行ったことがある．しかし，礼儀を欠いた冷淡な対応をされ，居心地が悪かったので数日で戻ってきた．こちらは客が来た時の食事は，皆で賑やかに食べるが，あちらは台所に降りて食べたりするなど，既に習慣が大きく異なっておりうんざりした．

31）これは言下に「中国へは渡らない方がよい」とアドバイスしていた，ということ．

32）カオランは，54 の国定民族分類では，サンチーとともに，サンチャイ族のサブグループとされている．カオランに漢字をあてると「高闌」あるいは「高欄」で，高床式住居に住んでいることを意味する．タイ系言語を話すが，カオランの一部はザオ族に近いともいわれる．後にふれるサンチーとともに，54 民族のひとつサンチャイ族とされているが，当時から，2 つの民族として認定するか，まとめてひとつの民族と認定するか論議があった．詳細は［伊藤 2008］を参照．

民族については混乱している．フランス時代はガイと呼ばれていた．申告どおりに認められていた．その後ハン（漢）といわれ，1945 年にはホアといわれ，その後またハンになり，1979 年にはまたホアと呼ばれた．それ以後はずっとホアである．ガイも客家も国家によってホアとされている．しかし自分は正統なガイであってホアではない．ガイ語は知っており客家語もわかる．客家語はガイ語がなまったものである．白話[33] はできない．1964-65 年にバクザン省の民族成分を決める会議があり，自分も参加したが，出たのはカオランとサンチーの話ばかりで，ガイの話は全くでなかった．

自分の子どもたちの世代（1960-70 年代生まれ）は，小学校の 1-3 年生くらいまでの学歴しかない．理由は経済的に厳しい時代だったことと，1978 年の華人帰国の頃の影響をうけて，学校に飽き，どの子も勉強しなかったからだ．ベトナム語の文字はどうにか読めるが，出世した者は全くいない．[34] その替わり，子どもの世代はガイ語で会話ができる．一方，1980 年代以降に生まれた孫世代は学歴はあるが，「ご飯を食べる」とか「学校へ行ってくる」とか簡単なガイ語の会話を聞くことができる程度でみなあまりできない．幼い時は，自分と妻でガイ語で話しかけていたが，両親とはキン語でしか話さないため，次第にできなくなった．今でもうちへ来た時は「ガイ語を話せ」と言い，ガイ語で話しかけている．キン語を話すと「とっとと失せろ」と怒鳴る．キン語で話すことを孫たちに許し甘やかしたくない．

だいぶ年を取ってから退職制度を知らされ，現在は【年金のようなものを】もらうようになった．しかし，かれらは給料の基準も表彰制度も，限られたことしか私に知らせなかったので，だいぶ損失を被った．私は抗米戦争期には大きな功があるのに．

②T・D・クイ（T D Quý）氏，タイグエン省フービン県ドンリエン社ドンタム村（Thái Nguyên, Phú Bình, Đồng Liên, Đồng Tâm）在住，1929 年生（インタビュー当時 86 歳，男性）

父は中国人（ガイ），母はベトナム人．兄弟は男 4 人，女 4 人で，自分は次男でリューサー（Lưu Xá）駅のそば，ザーサン社【現在のタイグエン市フーサー（Phú Xã）区】で生まれた．原籍はクアンニン省と身分証明書に記載されている．

家譜があったのだが，抗仏戦争時に無くしてしまった．言い伝えでは，広東省那良【現在の広西壮族自治区防城港市防城区にあたる】から 5 代前の祖先が来たという．仏領下，父方祖父はベトナムで里長（村長）をしており，父もタイグエンの街に近いザーサン社の里長だった．1945 年には母方祖父（キン）がザーサン社の行政抗戦委員会【革命政府側】に入っていた．その娘である母グエン・ティ・T（Nguyễn Thị T）はベトナム革命に参加した人である．キンであったがガイ語を話すことができ，後にガイに民族籍を替えた（既に死亡）．自分の妻もキンだがガイ語を話せる．彼女は隣のフービン県の出身で，自分が教師をしていた時の生徒である．

フランス統治時代に小学校 4 年生まで学校へ行った．父がキン人を先生に雇ってくれ，ベトナム語を習った．ザーサン社にいた頃は漢字も習った．ドンタムに来てからも，ハン・ヴィエン・シン（Hàn Viên Sinh）という名前の中国人の先生を父が雇って漢字を習わせたが，身につかなかった．シンさんは中国生まれだったがベトナム共産党の党員で，とても教条的な人だった．シンさんはあちらへ帰って中国共産党の党員になった．シンさんの息子は，1978 年にいったんハイフォンに逃げたが，戻ってきてダイトゥー県タンヴィエット社のタンヴィエットホア農場で働き，こちらで結婚して子どもも生まれた．本人は既に亡くなったが，妻子は農場で今でもお茶を栽培している．その農場にはホアがたくさんいる．

日本軍は現在のタイグエン市の市内に駐屯した．ドンヒーのキンナム市場近くで鉱石を採掘したりして

33）白話とはもともと話し言葉の意味だが，ベトナム北部では広東語の広西方言のことをいう．

34）同年代の他民族は，たとえば同じ社内に住んでいるタイーやヌンは，皆最低小学校は出ており，中学を出ている者も珍しくなく，高校を出ている者もいる．この世代のガイの学歴が極端に低いことがわかる．

いた．フランスと戦って仏軍兵をたくさん殺した．その後飢餓が起こり，タイグエンでも毎日ものすごい数の人が死んでいった．亡くなった人は 45 年より，44 年の方が多かった．遺体はサボテン区と呼ばれたところに集められ，仏軍兵が死体を引きずってきて，掘った穴に 5-6 人ずつ埋めていた．国道 3 号線のドアン橋の周辺の水路のかたわらにも飢餓で死んだ人がたくさん折り重なっていた．飢餓で亡くなったのはキンがほとんどで，ガイは死んでいない．ガイはおかゆをつくりサツマイモを料理して生き延びた．

45 年にベトミンがやってきた．最初に来たのはベトナム解放宣伝隊で，ザップ将軍とホー主席がチュー・ヴァン・タン大将に集会を開かせた．ディンホアで隊を結成し，ザップ氏が大将，タンは上将になった．ドンケーやカオバンの仏軍を叩いたのはこの隊で後に非常に有名になった．この解放宣伝隊のメンバーは多くがトー人だった．この時期，キン人は飢餓で疲弊していて，レベルも高くなく，トー人の方が死をおそれず戦い，活躍していた．トー人のヴァン・ザンやマイ・チュン・ラムといった人たちは高位の幹部になった．

革命の始まりは 1945 年春だ．その頃はまだ自分はザーサン【タイグエンの街の一角】におり，自分の内祖父はザーサンの村長をしていた．自分は既にベトミンに入っていて，私たちは革命の道について勉強しに行き，半月刀を握りしめ，白シャツと黒の綿ズボンをはいて活動した．私は革命の始まりから功をたてたのだ．ゲリラ小隊の隊長，中隊の副隊長をした．1945 年 9 月 2 日のホー主席の独立宣言はラジオで聞いた．その後は，橋や道路の建設などをやった．フランスとの戦闘が激しくなった 1947 年頃は，【仏軍の邪魔をするため】道を破壊する仕事に参加したりした．

その後 1952-54 年にかけて，この集落にガイが入植した．最初にやってきたのはルック家である．そして自分たち T 家も，その他の一族も続々と入植した．

その後 1954 年から 61 年まで，自分は非識字一掃のための平民学務【補習校】で教師をした．ホー主席の言葉に従ったのだ．その間，土地改革の時に，この社【行政村】に前からいたキン人でバクニンが故郷のグエン・ゴック・T（Nguyễn Ngọc T）という地主から，土地，水牛と牛を接収した．通称ルックといい，彼は抗戦地主で，当初はフービン県の副主席もつとめていた人で，静かな性格だった．ルックは能力があり，建築請負人や口入れ屋【仕事の仲介業】をしており，彼が雇った労働者たちが，現在のダオ川の土手の道をつくったのだ．それなのに最後には彼を投獄しなければならなかった．完全に「無実の罪」だったが．彼は 1 年間服役した．ルックには 2 人の養子の娘がいたが，下のルオン（Lương）は父が投獄されている間に天然痘になって死亡した．私たちは地方ゲリラだったから，彼女を埋葬しにいかないといけなかった．ルックは刑務所から出たのち，上の娘のフック（Phúc）と一緒にハノイへ行ったので，私たちは彼の土地を社の人々で分けて家を建てた．自分はその時 2 マウ[35] 以上をもらった．その後，合作社が解体した 1978 年にガイは土地を一部没収されたが，自分は子どもが多いという理由で，1 マウ強は手元に残せた．

1962 年には合作社の検査班長になった．われわれガイは合作社のために本当によく働いた．キンはそれほど働いていない．行政村レベルでは，キンとガイはほぼ同じくらいの人数がいたが，幹部はガイの方が多かった．キンは選ばれないし，かれらがわれわれガイを選んでいた．おかしいよね．党委員会も人民委員会もみな，われわれガイを選んだ．ガイは仕事をするからだ．選ばれるとみな熱心に働く．自分は 1963 年からこのドンリエン社の郵便局で働いたが，1978 年に強制的に退職させられた．党委員会と人民委員会に突然「ホアはもう働けない」と言われた．

それ以後は，並行してやっていた農業だけを続けた．1 マウ強の田んぼは子どもたちに分配した．自分はもうつくっていないので，今は子どもたちが食べさせてくれている．分配は女の子にも平等に分けた．男の子には差をつけている．息子は合作社が解体した時に分けてもらっているから少な目にした．女性の民族衣装もその頃着るのを禁止された．それでみなやめたのだよ．私の母もその時着るのをやめた．

35）1 マウは，北部では 3,600 平方メートル．

当時ベトナムはホアを追い払っているといわれており，自分も中国に行った方がよいのだろうかと考えた．しかし幹部をしていたから自分は行かなかった．結局，ベトナムは自分にとってよかった．自分にとり中国は父でベトナムは母だ．ここにいれば，子どもたちは経済的にもどうにかやっていける．ただ自分は妻を亡くして，家の敷地内でやっていた畑もやる気がしなくなってしまった．87 歳【数え年】なのにまだ何かしないといけないのか．

1978 年時点で，この集落には全部で 20-30 戸ほどいたが，そのうち 7 戸が中国へ行った．割合でいうと 3 割くらいだと思う．行先は広西と福建である．出国した家は以下のとおりである．【個人情報なので略称とする．】

PHK 氏の家（計 7 人） PHK 氏は合作社の主任だった．K 氏の母が先に出国したため，K 氏と家族も後を追った．最初は中国側に渡れずに戻ってきたが，手続きをし直して数ヵ月後に出国した．もともと K 氏自身が中国から移住してきた第一世代だったため，帰国の意思が強かった．行先は福建だが K 氏の息子は広西にいる．本人と妻と本人の母，3 人の息子と 1 人の娘が出国した．最近は時々帰ってきている．

TTD 氏の家（計 5 人） TTD 氏も母が出国をしたがり，全員でついていかざるをえなくなった．行先は広西で，本人と妻，本人の母，子ども 2 人が出国した．D 氏は軍隊で工兵をした後，戻ってから集落の共産党支部書記となり，78 年まで全てを仕切っていた．妻も党員で社の婦人会副会長で威信のある人だった．

TKD 氏の家（計 5 人） 広西寧明へ行った．TTD の兄にあたり，本人と妻と 3 人の子どもが出国した．

LDK 氏の家（計 8 人） 本人の祖母と両親，本人と妻，子ども 3 人が福建へ行った．

TDT 氏の家（計 8 人） クイ氏の弟，一家で福建へ行った．

THS 氏の家（計 6 人） 合作社主任をしていたこともあったが，福建へ行った．

LQM 氏の家（計 2 人） 近辺のドンバム社の教員だったが，広西南寧へ行った．本人と妻の 2 人で子どもはいなかった．

ベトナムに残った人たちもみな，ガイは役職を追われ，幹部は全てキンに替わった．それ以後，ガイは重要な役職，高い役職にはつけない．たとえ優れた能力があっても，上に上申した時に懸念を示されることを怖れて，はじめから自主規制してガイを推薦しなくなった．ここには非常に大きな差別がある．自分の息子も公安【警察官】になりたかったが結局なれず，水利の仕事をした．現在は 1970 年代末から 80 年代ほど露骨ではなくなったものの，依然として大きな差別がある．出世しないのがわかっているから【高位の幹部にはなれないことがわかっているから】，ガイとの結婚を避けることもある．これは今も同じで，自分の孫たちの世代も同じ状況にある．高校や大学へは行けるようになって，ようやく最近になって入試の時は少数民族としてわずかな加点も受けられるようになり，学歴はキンと同様につけられるようになった．そのため，小さな子どもたちや孫世代は外【の世界】に出ていけるようになったが，私企業の経営者にしかなれない．学歴があっても公安になる試験さえうけさせてもらえない．

【今家のある】この場所は最初自分の兄に渡った土地だ．近所のラムさんの家の後ろに広がる土地も，私が土地改革の時に分配され，その後，親戚の P・L・キー（P L Kỳ）にやったものだ．しかしキーは 1978 年に福建へ行ってしまったので自分が買った．

弟の T・Q・シン（T Q Sinh）は学校も 8 学年まで終え，クオックグーを習い，漢字や中国語もできる．学校を終えてから，クアンイェン士官学校【タイグエン省ダイトゥー町クアンチュー社 Quân Chu】で学んだ．抗米戦争で戦った退役軍人でもある．彼を含めこの地域からは非常に多くのホアが兵隊に行った．兄の T・T・トゥ（T T Tư）も軍隊へ行ったが南で戦死してしまった．しかし遺骨さえどこにあるのかわからない．その他，兵隊として南へ行った ĐĐ ホアさんは，今は車の運転で食べているが，何の書類も申

請できないでいる．TQ ズンさんも士官だったが，1978 年に軍を追われて帰らせられた．自分の親戚にも若くして亡くなった烈士がひとりいる．撃たれて死んだらしいが，彼もどこに遺骨があるのかわからない．このように，ホアは非常にたくさん仕事をしたのだ．それなのに，1978-79 年の事件でみんな軍隊をクビになった．

自分も 9 年間フランスと戦った．そして 1945 年から 78 年までずっと国家のために働いて引退した．いったいどれだけの功労があったと思うか？[36] 年金も全くない，党員も全てクビになった，バクザン省ルックガン県などと同じように，たくさんのガイが集められて中国に帰されたのだ，ルックガンのガイは裕福な家庭が多かったが，78 年以降，現在の子ども世代は，われわれの世代よりずっと貧しくなってしまっている．

中国の広西には妹の孫の結婚式に出席するためなどで，ドイモイ後 2-3 回行った．ランソン省のタンタイン[37] を通り広西の憑祥へ出た．自分の妹は憑祥におり，妹の娘や孫もみなあちらで結婚した．相手は壮【族】である．タンタインでは，少しお金を払い，辺境部隊が通行証を発行してくれて，あちらに渡り 7 日間滞在した．憑祥の壮はガイ語も話せるので話はできた．国家は 7 日しかあちらに滞在できないと決めているので，あまり遠くへは行けない．現在国境から離れて中国奥深くへ行くにはパスポートが必要になった．お金がないとパスポートはつくれない．広西と福建に親戚が逃げたが，福建は遠いので行ったことがない．1978 年に逃げた人たちのなかには，米国，カナダ，イギリスから清明節の時に墓参りをしによく戻ってくる人もいる．

自分のことはガイだと思っているが，国家はホアだという．身分証明書をはじめ公的文書の民族籍欄には「ホア」と書かれていて，ガイに変えてほしいが変えてもらえない．自分の家はもともとは漢（Hán），同じガイでももともとはヌンの家もある．[38] 白話はわからない．自分の子どもは男 4 人女 4 人だが，ガイ語を話せるのは長男だけで，他は話せない．自分は最も長生きしているだけでなく，頭もはっきりしていて，昔のことをよく覚えている．私は革命をやったのだから何も怖れはしない．ラムさん【隣人】はびくびくしているから何にもしゃべりはしないよ．

③グエン・フン・C（Nguyễn Hùng C）氏，タイグエン省フービン県ドンリエン社ドンタム村（Thái Nguyên, Phú Bình, Đồng Liên, Đồng Tâm）在住，1931 年生（インタビュー時 83 歳，男性）

原籍は中越国境のクアンニン省（昔のハイニン省）ダイクエンナム，ハーコイ（Đài Quyền Nam，現在は Quảng Hà，Hà Cối,）で，父の代にハティン省【北中部の沿岸省】からクアンニン省に移住したと聞いている．我が家はガイでなくキンだ．ハティンでは漁師をしていて，海岸づたいにクアンニンまでよい漁場を求めていった．自分の記憶ではクアンニン省で農業をしていたが，タイグエンの方が広くてより豊かな土地がたくさんあると聞いて，1943 年に 3 人で移住してきた．

3 人とは，父の義理の兄弟にあたる人でルック（Lục）家の人と，姉のランである．来た頃はフランス統治下で，何民族かということを問題にされたことはなかった．だから民族の登録などはしていなかった．

36）筆者は「あなたはしっかり理解しないといけない．いい加減に理解していたら論文はサルみたいになるぞ」と言われた．国家に裏切られた気持ちをかかえるクイ氏の口惜しさが伝わってきた．

37）タンタインは，ベトナムのランソン省の国家級貿易拠点．国際級と違い，国家級は第三国の人間は通れない．しかしランソン省では，国際級のドンダン（中国側友誼関）よりも貿易量は大きく，ランソン省最大の貿易拠点である．

38）バクザンやタイグエンでガイと自己認識する人々のなかには，祖先について「ハン」だったとする人々と，「ヌン」だったとする人々の 2 種類があるようだが，エスニシティについての詳細な違いや出身地の違いなどは未解明で，よくわからない．ヌンだったとする人たちと，本稿でふれたハイニン出身のガイで，ホアヌンと自称する人たちとの関係も未解明である．

1945 年以降補習学校で 7 年生まで学んだ．そして，1952 年から 1977 年まで集落の公安の仕事を農業のかたわらやっていたが，自分から辞職した．

長男（1955 年生）は，1974 年から防空軍に勤務しており，士官学校を出てから，さらにパイロットの技術を学びに，ニャチャンにある防空軍の学校へ行く準備をしていた．そこで起こったのが中国との戦争だ．1979 年 2 月長男は軍隊から追い出されて故郷に戻ってきた．その時同じ中団にいたのは 800 人ほどだったが，うち長男を含む 4 人が帰された．残りの 3 人はバクザン省ルックガン県のガイだった．上は高級将校から下は兵士までだ．この時点で軍隊にはホアは 1 人もいなくなった．

息子がホアでないことを証明して軍隊に戻らせるために，祖先について調べようとクアンニン省に行った．しかし，父の代にクアンニンに移住してからは，周囲の 99%がホア【ここでいうホアは実質的にはガイ】であるところで暮らすには，自分もかれらと同じようにホアとなった方が都合がよかった．それで，父はホアと届けていたらしい．それですぐにはキンだと証明できなかった．やっとクアンニン省から証明してもらった書類をこちらに持って帰って提出したが，こちらの幹部はそれっきりで返してくれず，どうなったかわからない．長男ももう年取って軍隊に戻っても仕方ないと言うようになり，そのままほうっておいた．結局，長男は軍人だったのに年金もなく，あるのは医療保険だけだ．【ただ，長男と孫・ひ孫世代は全て民族籍はキンとして身分証明書に記載している．C 氏本人はホアのままにしている．しかし，ほとんどガイばかりの集落に住んでいるので，周りからは一家もガイと思われている．】クアンニンから一緒に移住してきた姉は，1978 年にガイの夫とともに中国へ渡り福建に移住した．